

令和7年度～令和10年度

志摩市学校教育 情報化推進計画

Ver1.0（令和7年9月初版）

未来を創る子どもたちへ

ホライゾンス

ICTで広がる学びのHorizons

志摩市教育委員会

目次

- 1 はじめに
- 2 現状分析
- 3 めざす姿
- 4 課題と解決策
- 5 4か年計画の概要
- 6 各年度の具体的な施策
- 7 評価指標
- 8 組織体制
- 9 今後の展望
- 10 まとめ

1-1 はじめに

令和元年度からのGIGAスクール構想第1期において、1人1台端末（以下、タブレット）と高速ネットワークが学校に整備され、ICTを活用した教育が全国規模で始まりました。本市においても、ここ数年で授業の中でタブレットや大型テレビを使う場面が広がっています。そして、令和6年度からGIGAスクール構想の第2期が始まり、令和7年度には第1期で整備したタブレットが更新されるなど、ICTを活用したさらなる教育の推進が期待されています。

このような教育環境の整備により、ICTの有効な活用を通じた効果的な学習と、一人ひとりに応じた個別最適な学習の推進が可能となっています。もちろん学校でのすべての時間にICTを活用するわけではありませんが、志摩市におけるこれまでの取組では、タブレットの活用の頻度や家庭での活用について、さらなる取組が必要な状況があります。GIGAスクール構想第2期を迎えている現在、新たに整備されたタブレットをどのように効果的に活用するのか、授業のどの場面で活用することが最適か、さらに学校での学びを家庭学習へどのように発展・連携させていくかといった取組が求められています。

ICTの有効利用による教育の質の向上には、整備された機器とその機器を活用する教職員の指導力、そしてその機器を使いこなす子どもたちの学習力が必要です。子どもたちの学習力を引き出すためにも、教職員による指導力は欠かせないものになり、「一番の教育環境は教師自身である」という言葉の通り、ICT教育の推進においても、教職員の意識と力量が大事な要件になります。

本推進計画は、教職員が同じ意識のもと、教室の子どもたちの実態に即したICTの有効な活用と、ICT設備の整備、ICTを生かした校務支援の在り方についての指針を示したものです。子どもたち一人ひとりの「わかった」「できた」という達成感の積み重ねこそが、子どもたちの可能性を伸ばし未来を拓く力になり、教職員の働き甲斐にもつながります。また、教職員が子どもと向き合う機会を確保するためにもICTの活用は有効です。教育委員会としましても、学校としっかり連携し、ICTを活用した教育の推進を支援していきますので、すべての学校において、本推進計画を活用しながら、子どもたちの未来を創る教育が実践されることを期待しています。

令和7年9月

志摩市教育委員会 教育長 舟戸宏一

| 1-2 はじめに

未来は、私たちが想像するよりもずっと変化に富んでいます。そんな未来を生きる子どもたちに必要なのは、思いを伝え、他者と協力し、多様な価値観を受け入れる心。そして、変化を恐れず、自ら学び続ける力です。

グローバル化、AIの進展など、社会環境は急速に変化しており、子どもたちは多様な情報にアクセスし、それを活用する能力が求められています。

新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」が重視されており、ICTの活用がその実現に不可欠となっています。

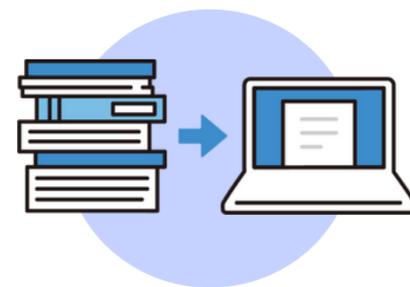
本計画の目的



ICTを活用した
児童生徒の
資質・能力の育成



教職員のICT活用
指導力の向上と
人材の確保



ICTを活用する
ための環境の整備



校務の改善と
ICT推進体制の整備

志摩市学校教育情報化推進計画を策定する目的は、ICTを活用することで、より効果的で効率的な教育を実現し、児童生徒一人ひとりの可能性を最大限に引き出すことにあります。

具体的には、「個別最適な支援により、一人ひとりの学習状況に合わせた指導を行い、学習効果を最大化すること」「教職員の負担軽減により、教職員がより教育活動に集中できる環境を整えること」「主体的・対話的な深い学びを促進し、児童生徒の思考力や表現力を育むこと」です。

ICTを活用することで、これらの目的を達成し、児童生徒が自ら学び、成長できる環境を整備します。

1-4 はじめに

計画の対象

本計画では、志摩市の学校教育における情報化の推進に関する基本的な方針、施策の方向性やロードマップを示します。

計画の位置づけ

本計画は、「学校教育の情報化の推進に関する法律」（令和元年法律第47号）及び国の学校教育情報化推進計画等を踏まえて策定するものです。

計画期間

令和7年度から令和10年度までの4か年を期間とします。また、ICT分野の技術革新のスピードは速く、国や県の施策の動向にも対応する必要があるため、必要に応じ随時更新を行います。

2-1A 現状分析



志摩市の児童生徒のICT利用状況

Q. 子どもたちの1人1台端末の活用状況や活用能力の現状は？

【小学校】

※表は令和6年度全国学力・学習状況調査「児童質問紙」のデータをもとに作成

- ・4-学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）

選択肢	志摩市	全国
① 3時間以上	5.1 %	3.2 %
② 2時間以上 3時間より少ない	1.7 %	4.3 %
③ 1時間以上 2時間より少ない	8.1 %	12.3 %
④ 30分以上 1時間より少ない	18.4 %	24.4 %
⑤ 30分より少ない	24.4 %	29.9 %
⑥ 全く使っていない	42.3 %	25.9 %

- ・27-5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使いましたか

選択肢	志摩市	全国
① ほぼ毎日	4.7 %	25.3 %
② 週3回以上	17.1 %	34.2 %
③ 週1回以上	34.6 %	26.0 %
④ 月1回以上	30.8 %	10.3 %
⑤ 月1回未満	12.8 %	4.2 %

- ・28-5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。

(5) 自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる

	とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
志摩市	19.2 %	46.2 %	27.8 %	6.8 %
全国	33.3 %	45.9 %	17.2 %	3.5 %

【中学校】

※表は令和6年度全国学力・学習状況調査「生徒質問紙」のデータをもとに作成

- ・4-学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）

選択肢	志摩市	全国
① 3時間以上	2.6 %	2.3 %
② 2時間以上 3時間より少ない	3.0 %	3.8 %
③ 1時間以上 2時間より少ない	9.1 %	10.5 %
④ 30分以上 1時間より少ない	16.2 %	19.8 %
⑤ 30分より少ない	36.2 %	34.8 %
⑥ 全く使っていない	32.8 %	28.4 %

- ・28-1、2年生のときの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。

(3) 楽しみながら学習を進めることができる

	とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
志摩市	34.7 %	40.8 %	20.4 %	3.8 %
全国	39.1 %	43.3 %	13.4 %	3.4 %

- ・28-1、2年生のときの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。

(7) 友達と協力しながら学習を進めることができる

	とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
志摩市	37.7 %	42.3 %	17.7 %	2.3 %
全国	39.8 %	45.4 %	11.1 %	2.9 %

2-1B 現状分析



Q. 【小学校】児童の1人1台端末の活用状況や活用能力の現状は？

- ・53-前年度に、教員が大型提示装置等（プロジェクター、電子黒板等）のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか

選択肢	志摩市	全国
① ほぼ毎日	14.3 %	76.0 %
② 週3回以上	42.9 %	16.9 %
③ 週1回以上	42.9 %	4.7 %
④ 月1回以上	0.0 %	1.2 %
⑤ 月1回未満	0.0 %	1.1 %

- ・56-調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

選択肢	志摩市	全国
① ほぼ毎日	0.0 %	69.0 %
② 週3回以上	57.1 %	24.2 %
③ 週1回以上	42.9 %	6.0 %
④ 月1回以上	0.0 %	0.5 %
⑤ 月1回未満	0.0 %	0.1 %

- ・59-教職員と調査対象学年の児童がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

選択肢	志摩市	全国
① ほぼ毎日	14.3 %	32.1 %
② 週3回以上	14.3 %	27.6 %
③ 週1回以上	42.9 %	23.5 %
④ 月1回以上	28.6 %	10.9 %
⑤ 月1回未満	0.0 %	5.7 %

- ・61-調査対象学年の児童が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

選択肢	志摩市	全国
① ほぼ毎日	0.0 %	19.3 %
② 週3回以上	42.9 %	33.5 %
③ 週1回以上	42.9 %	30.8 %
④ 月1回以上	14.3 %	12.0 %
⑤ 月1回未満	0.0 %	4.2 %

- ・64-児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか

選択肢	志摩市	全国
① 毎日持ち帰って、毎日利用させている	0.0 %	21.9 %
② 毎日持ち帰って、時々利用させている	14.3 %	14.3 %
③ 時々持ち帰って、時々利用させている	85.7 %	50.1 %
④ 持ち帰らせていない	0.0 %	7.3 %
⑤ 持ち帰ってはいけないこととしている	0.0 %	1.0 %
⑥ 非常時のみ、持ち帰ることとしている	0.0 %	5.3 %

※表は、令和6年度全国学力・学習状況調査「学校質問紙」のデータをもとに作成

2-1C 現状分析



Q. 【中学校】生徒の1人1台端末の活用状況や活用能力の現状は？

- ・56-調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

選択肢	志摩市	全国
① ほぼ毎日	16.7 %	67.5 %
② 週3回以上	83.3 %	23.3 %
③ 週1回以上	0.0 %	7.7 %
④ 月1回以上	0.0 %	1.2 %
⑤ 月1回未満	0.0 %	0.2 %

- ・59-コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられていますか

	そう思う	どちらかといえば、 そう思う	どちらかといえば、 そう思わない	そう思わない
志摩市	50.0 %	50.0 %	0.0 %	0.0 %
全国	35.1 %	49.5 %	13.8 %	1.4 %

- ・61-調査対象学年の生徒が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

選択肢	志摩市	全国
① ほぼ毎日	0.0 %	33.0 %
② 週3回以上	66.7 %	37.4 %
③ 週1回以上	16.7 %	23.1 %
④ 月1回以上	16.7 %	6.0 %
⑤ 月1回未満	0.0 %	0.5 %

- ・62-調査対象学年の生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

選択肢	志摩市	全国
① ほぼ毎日	16.7 %	19.4 %
② 週3回以上	0.0 %	32.5 %
③ 週1回以上	50.0 %	30.2 %
④ 月1回以上	33.3 %	15.5 %
⑤ 月1回未満	0.0 %	2.3 %

- ・64-調査対象学年の生徒同士がやりとりする場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

選択肢	志摩市	全国
① ほぼ毎日	0.0 %	16.9 %
② 週3回以上	16.7 %	24.2 %
③ 週1回以上	50.0 %	28.5 %
④ 月1回以上	0.0 %	16.4 %
⑤ 月1回未満	33.3 %	13.8 %

※表は令和6年度全国学力・学習状況調査「学校質問紙」のデータをもとに作成

2-1D 現状分析



志摩市の児童生徒のICT利用状況

Q. 子どもたちの1人1台端末の活用状況や活用能力の現状は？

- 志摩市が小4児童～中3生徒を対象に調査している「情報化に関心のある児童・生徒の割合」において、調査をはじめた令和2年度には64.0%だった割合が、令和6年度には76.4%まで上昇しており、児童生徒の情報教育への関心が高まっている。
- ICT機器の活用については、全国的に活用頻度が高まっているが、志摩市においては授業内外を問わず、全国値と比べて活用頻度が低いことが明らかになっている。この原因として、導入したICT機器を扱うにあたる教職員の意識差があることに加え、「機器の不具合が多く、授業で一斉に使うと不具合が生じた児童の対応に追われて授業が進まない」といったことが学校現場の声としてあがっている。通信を含めたICT利活用の環境整備については、教育委員会の対応にも課題があった。
- 「自分の考えや意見をわかりやすく伝える」「友達と協力しながら学習を進める」等といった、他者との関わりにICT機器を活用する力が十分につけきれていない。
- 全国値と比較すると1日当たりのテレビゲームの時間が多く、情報機器を活用する際に健康的な生活に支障をきたしたり、利用について自制する力が弱かったりすることが推測される。

・5-普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか

【小学校】

選択肢	志摩市	全国
① 4時間以上	22.2 %	17.7 %
② 3時間以上 4時間より少ない	16.7 %	12.6 %
③ 2時間以上 3時間より少ない	17.5 %	18.9 %
④ 1時間以上 2時間より少ない	23.9 %	25.1 %
⑤ 1時間より少ない	14.1 %	17.7 %
⑥ 全くしない	5.6 %	8.0 %

・5-普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか

【中学校】

選択肢	志摩市	全国
① 4時間以上	21.5 %	16.6 %
② 3時間以上 4時間より少ない	14.3 %	12.4 %
③ 2時間以上 3時間より少ない	18.1 %	19.9 %
④ 1時間以上 2時間より少ない	22.6 %	21.4 %
⑤ 1時間より少ない	14.3 %	17.7 %
⑥ 全くしない	8.7 %	11.2 %

2-2A 現状分析



志摩市の教職員のICT活用指導力

Q. 先生たちのICT機器の活用能力の現状は？

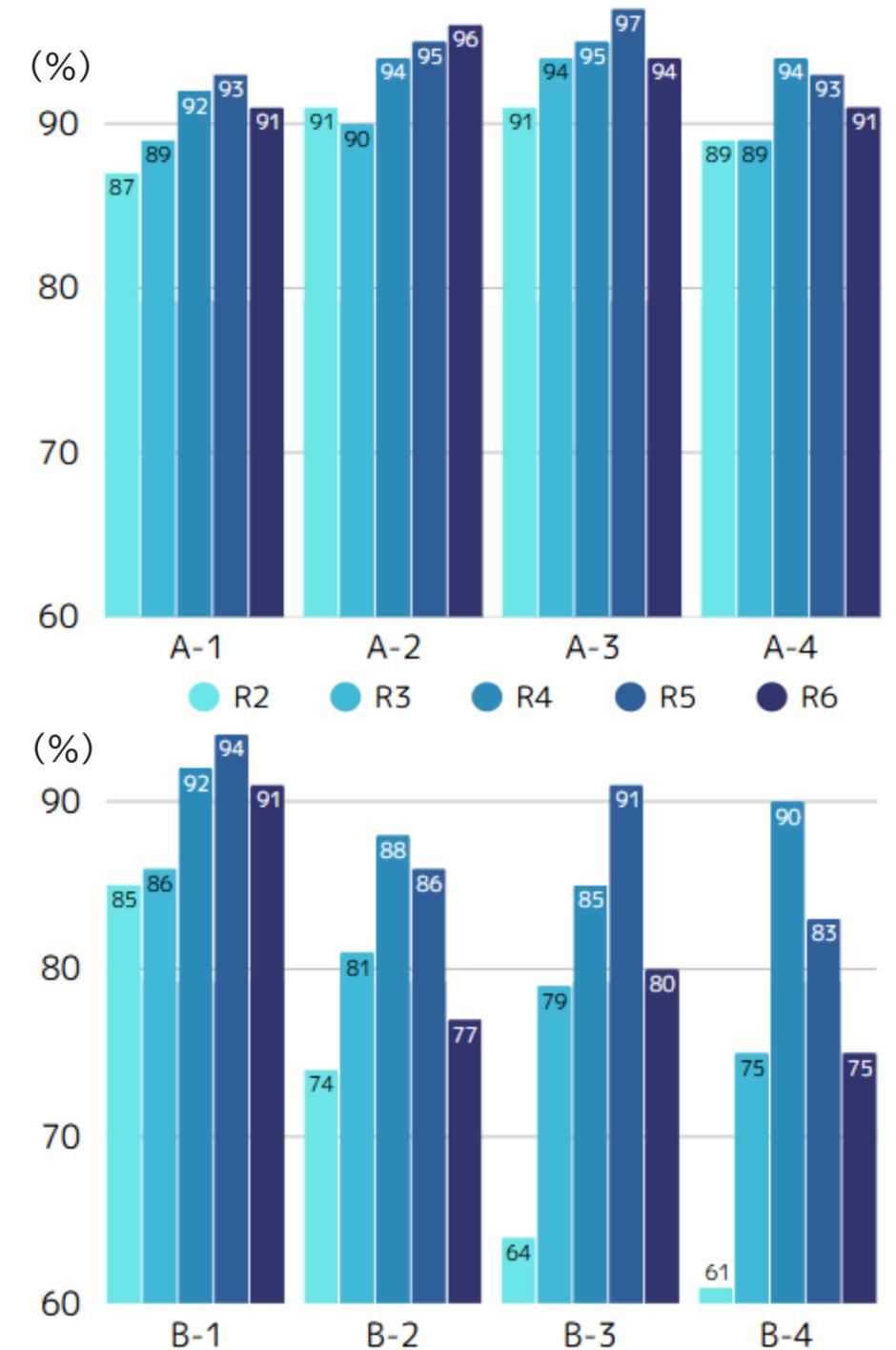
A 教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する能力

- A-1 教育効果を上げるために、コンピュータやインターネットなどの利用場面を計画して活用する。
- A-2 授業で使う教材や校務分掌に必要な資料などを集めたり，保護者・地域との連携に必要な情報を発信したりするためにインターネットなどを活用する。
- A-3 授業に必要なプリントや提示資料，学級経営や校務分掌に必要な文書や資料などを作成するために，ワープロソフト，表計算ソフトやプレゼンテーションソフトなどを活用する。
- A-4 学習状況を把握するために児童生徒の作品・レポート・ワークシートなどをコンピュータなどを活用して記録・整理し，評価に活用する。

B 授業にICTを活用して指導する能力

- B-1 児童生徒の興味・関心を高めたり，課題を明確につかませたり，学習内容を的確にまとめさせたりするためにコンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。
- B-2 児童生徒に互いの意見・考え方・作品などを共有させたり，比較検討させたりするために，コンピュータや提示装置などを活用して児童生徒の意見などを効果的に提示する。
- B-3 知識の定着や技能の習熟をねらいとして，学習用ソフトウェアなどを活用して，繰り返し学習する課題や児童生徒一人一人の理解・習熟の程度に応じた課題などに取り組ませる。
- B-4 グループで話し合っって考えをまとめたり，協働してレポート・資料・作品などを制作したりするなどの学習の際に，コンピュータやソフトウェアなどを効果的に活用させる。

※データは、「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」に肯定的な回答をした割合をもとに作成（令和6年度のデータは、速報値をもとにした数値）



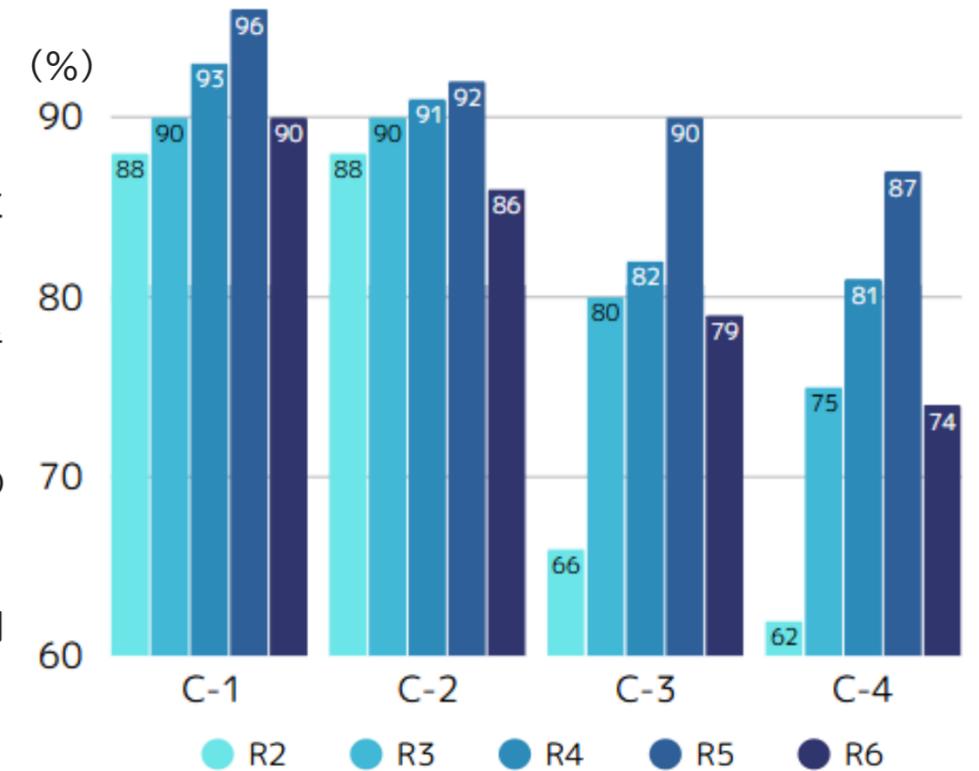
2-2B 現状分析



Q. 先生たちのICT機器の活用能力の現状は？

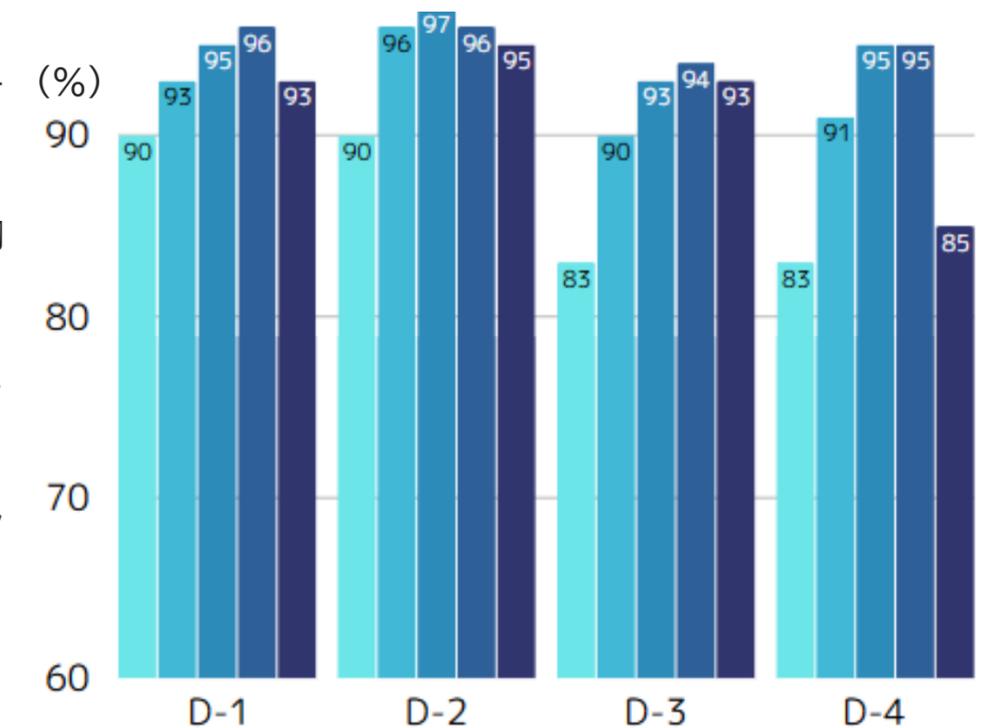
C 児童生徒のICT活用を指導する能力

- C-1 学習活動に必要な、コンピュータなどの基本的な操作技能（文字入力やファイル操作など）を児童生徒が身に付けることができるように指導する。
- C-2 児童生徒がコンピュータやインターネットなどを活用して、情報を収集したり、目的に応じた情報や信頼できる情報を選択したりできるように指導する。
- C-3 児童生徒がワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトなどを活用して、調べたことや自分の考えを整理したり、文章・表・グラフ・図などに分かりやすくまとめたりすることができるように指導する。
- C-4 児童生徒が互いの考えを交換し共有して話し合いなどができるように、コンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導する。



D 情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力

- D-1 児童生徒が情報社会への参画にあたって自らの行動に責任を持ち、相手のことを考え、自他の権利を尊重してルールやマナーを守って情報を集めたり発信したりできるように指導する。
- D-2 児童生徒がインターネットなどを利用する際に、反社会的な行為や違法な行為、ネット犯罪などの危険を適切に回避したり、健康面に留意して適切に利用したりできるように指導する。
- D-3 児童生徒が情報セキュリティの基本的な知識を身に付け、パスワードを適切に設定・管理するなど、コンピュータやインターネットを安全に利用できるように指導する。
- D-4 児童生徒がコンピュータやインターネットの便利さに気付き、学習に活用したり、その仕組みを理解したりしようとする意欲が育まれるように指導する。



※データは、「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」に肯定的な回答をした割合をもとに作成（令和6年度のデータは、速報値をもとにした数値）

2-2C 現状分析



志摩市の教職員のICT活用指導力

Q. 先生たちのICT機器の活用能力の現状は？

- 「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」から、教職員のICT機器の活用能力はコロナ禍での経験も踏まえて向上してきていることが読み取れる。しかし、タブレットの導入が進む中で、その活用の仕方が多様化してきており、その変化への対応が追いついていない状況も見られる。そのため、個々のICT活用指導力をさらに高めていく必要がある。
- 各学校から出された調査データを読み解くと、ICT機器活用などの情報教育に苦手感がある教職員の姿がみえてくる。そのことに対して、令和6年度全国学力・学習状況調査「学校質問紙」の回答からは、ICT機器の活用についてのサポート体制は比較的充実していることがわかる。
- 「児童生徒に互いの意見・考え方・作品などを共有させたり、比較検討させたりする」「グループで話し合っって考えをまとめたり、協働してレポート・資料・作品などを制作したりする」「児童生徒が互いの考えを交換し共有して話し合いなどができる」といった児童生徒の対話的・協働的な活動に対する教職員のICT活用指導力について、重点的に高めていく必要がある。
- GIGAスクール構想第2期における1人1台端末の更新にあたり、使用OSがWindowsからiOSに変更されるため、これまで培ってきたICT活用指導力を生かしながら、新端末への対応を進めていく必要がある。



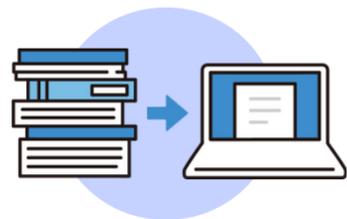
2-3A 現状分析 市内小中学校のICT環境の整備状況

Q. 端末やネットワーク環境、大型提示装置等の整備の現状は？

種別	概要	稼働数	契約期間	その他
1人1台端末	学習者用 (富士通・Dynabook端末 令和7年6月18日 現在)	2,508台	令和7年度まで	※予備機159台を含む iPadに変更(令和7年9月～)
	指導者用 (Dynabook端末 令和7年6月18日 現在)	146台		
校務用端末	HPノートPC (職員室用 令和7年6月18日 現在)	295台	令和9年12月31日 まで	※予備機5台を含む
	HPデスクトップPC (令和7年6月18日 現在)	32台	令和9年12月31日 まで	
ターミナルSV	リモート接続用ターミナルサーバー	—	令和10年8月まで	
大型提示装置	普通教室・特別支援学級分 (令和7年6月18日 現在)	160台	—	
貸出用ルータ	【令和5年度】児童生徒160台 (6.6%) + 他19台 = 179台 【令和6年度】児童生徒123台 (4.8%) + 他32台 = 155台		令和7年度まで	必要とする児童生徒に貸与

※表は、「志摩市教育委員会 システム更新ロードマップ」等をもとに作成

2-3B 現状分析



市内小中学校のICT環境の整備状況

Q. 端末やネットワーク環境、大型提示装置等の整備の現状は？

- 平成30年度:40台、令和元年度:398台、令和2年度:2,493台と、合計2,931台の1人1台端末(Windowsタブレット)の整備を行い、全児童生徒に端末を貸与できている(令和6年度末現在)。
- 令和5年度においては、故障が168台(破損:82台、ソフトウェアの不具合:5台、ハードウェアの不具合:81台)となっており、毎年想定以上の台数に故障がみられた。そのため、端末の更新において、学校現場からの要望も加味した上で、操作性や長期的利用に高い評価を得ているiPadを導入する。
- 校務用データについては、本庁基盤にターミナルサーバーを構築して運用している。教職員が学校外からアクセスする際には、ユーザー名とパスワードの入力に加え、認証トークンを用いている。
- 大型提示装置については、普通教室・特別支援学級分は配置できているが、特別教室への配置はできていないところもある。また、故障や破損なども生じてきており、今後の整備が必要である。
- 家庭での1人1台端末の活用については、Wi-Fi環境のない児童生徒を対象にルータの貸与を行い、すべての児童生徒宅でのオンライン学習環境を整えている。

2-4A 現状分析



ICT を活用した校務効率化の状況

Q. ソフトウェア・校務支援システム等の整備や活用の現状は？

種別	概要	数量	契約期間	その他
学習系 ソフトウェア	Microsoft 365 Education GIGA Promo	2,243式	令和7年12月2日 まで	M365は、更新せず
	SKYMENU(GIGA)	2,497式	令和8年3月31日 まで	端末更新に伴い、令和7年9月より ロイロノートに変更
	eライブラリ（ドリルソフト）	13校	令和8年3月31日 まで	端末更新に伴い、令和7年9月より 小学校：ドリルパーク 中学校：みんなの学習クラブ に変更
校務系 ソフトウェア	Office Professional Plus	413式	毎年更新	見直しの対象
	スズキ校務（小学校のみ）	7校	令和8年1月まで	中学校の校務支援システム導入に 合わせて、導入ソフトの検討
	えがお（保健ソフト）、Win書庫（図書システム）			見直しの対象
サーバー基盤	AD、DNS、i-filter、Active Mail、ファイルサーバー			見直しの対象

※表は、「志摩市教育委員会 システム更新ロードマップ」をもとに作成

2-4B 現状分析



ICT を活用した校務効率化の状況

Q. ソフトウェア・校務支援システム等の整備や活用の現状は？

- 志摩市においては、授業準備や学校と保護者間での連絡手段へのICT活用、学習支援ドリルソフトや図書館システムなどの整備を進め、児童生徒の学びを支えながら、校務効率化を図っている。しかしながら、長時間勤務の教職員（ひと月当たりの時間外在校等時間が45時間を超える者）もみられ、業務の更なる効率化や負担軽減に向けてデジタル技術の活用も必須となっている。
- 統合型校務支援システムにおいては、小学校での導入が済んでいる。中学校については、令和7年度からの導入を検討していたが、次世代型校務支援システムに係る国・県の動向を注視するため、導入が延期されている。
- ICT機器の管理や児童生徒の端末支援など、学校のICT活用が進むことで教職員への負担が一時的に増える懸念もある。児童生徒に対するきめ細かい指導や支援を行いつつ、教職員がデジタルによる負担軽減を実感できるよう、学校のICT活用の促進を組織的に支え続ける体制の強化が必要である。
- ICTの活用が児童生徒の学びの推進、教職員の異動時の負担軽減などにつながるよう、三重県教育委員会や近隣市町と連携して情報教育支援体制の構築を行う必要がある。また、教職員の利便性向上とセキュリティに配慮した最適な校務事務に係るICT環境整備方針の策定や改定に取り組む必要がある。

3 めざす姿

未来を生きる子どもたちにとって、デジタル機器は鉛筆やノートと同じくらい身近な道具になっていきます。それらを活用し、自分で課題を見つけ、友達と学び合うことで、それぞれの才能を伸ばし、社会に貢献できる人に育っていきます。

児童生徒が情報を主体的に捉えながら、何が重要かを考え、見出した情報を活用しながら他者と協働し、新たな価値の創造に挑んでいけるようにするために、教職員の知見とデジタルの力を最適に組み合わせた授業を構築し、誰一人取り残すことのない教育の実現を図ります。

また、児童生徒一人ひとりに向き合い、きめ細かい指導・支援を充実させるため、デジタルの力による教職員の働き方改革を一層推進するとともに、より良いICT環境や推進体制の構築に取り組み続けます。

4-1 課題と解決策



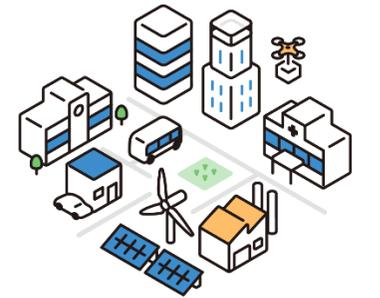
ICTを活用した児童生徒の 資質・能力の育成

課題

- ・ 現行の1人1台端末については、故障事例も多く、持ち帰りを含めた端末の活用頻度が低い。
- ・ 対話的な学習場面におけるICT機器の有効活用の仕方や支援の必要な児童生徒の学習や生活改善に係る端末活用の実践など、個別最適な指導方法の共有があまり進んでいない。
- ・ 外国籍児童生徒への日本語指導、不登校や病気療養中などの個々の状況に応じたデジタルサポート環境を充実させる必要がある。

解決策

- ・ 端末OSの変更を行い、その端末の有効活用と児童生徒が学校でも家庭でも利用しやすい環境を整備することで、学習習慣の定着を図る実践や意見交換を行う協働学習や主体的・対話的な学びを充実させる。
- ・ 児童生徒の学習定着度や心身の状況、デジタル・シティズンシップの育成状況などを把握できる環境を整え、分析に基づいた効果的な指導や支援を行う。
- ・ 各教科での指導に加え、特別支援における自立活動においてもICT機器の活用を推進し、個性や障がいの特性に応じたきめ細やかな教育の充実に取り組む。
- ・ 学校における学びの継続が困難となりがちな児童生徒に対する授業配信や教材の提供、オンライン相談の実施など、様々な教育機会を提供できるように整備する。



4-2 課題と解決策



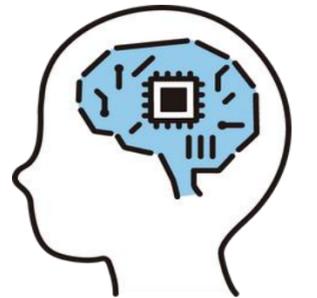
教職員のICT活用指導力の向上と人材の確保

課題

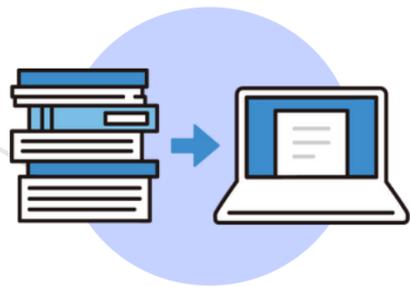
- ・ ICT活用指導力については、基本的なことは概ね身につけているが、児童生徒が協働・共有作業をすすめるための実践力やICT活用頻度については教職員によって個人差がある。
- ・ 教育データ、デジタル教材やプログラミング教材等を活用するための知識や技能が十分に身につけていない。
- ・ 学習者用端末のiPadに変更されるため、OSの変更に適した研修が必要である。

解決策

- ・ 「デジタルを有効活用した学び」につながる授業実践やコンテンツの作成・公開を行い、教職員が授業デザインを具体的にイメージし、実践できるよう支援する。
- ・ 生成AIの活用等、社会に急速に普及しつつある新たなコンテンツについての情報提供や研修をすすめる。
- ・ デジタル教材やプログラミング教材の活用に係る実証研究をすすめる、すべての教職員が有効活用できるような資料の提供や環境づくりをすすめる。
- ・ 1人1台端末（iPad）の活用に係る研修講座や情報共有のシステムを構築し、授業実践や日々の教育活動にすぐに活用できるよう支援する。また、他市町教委と連携し、実践や取組を共有できる環境を構築する。



4-3 課題と解決策



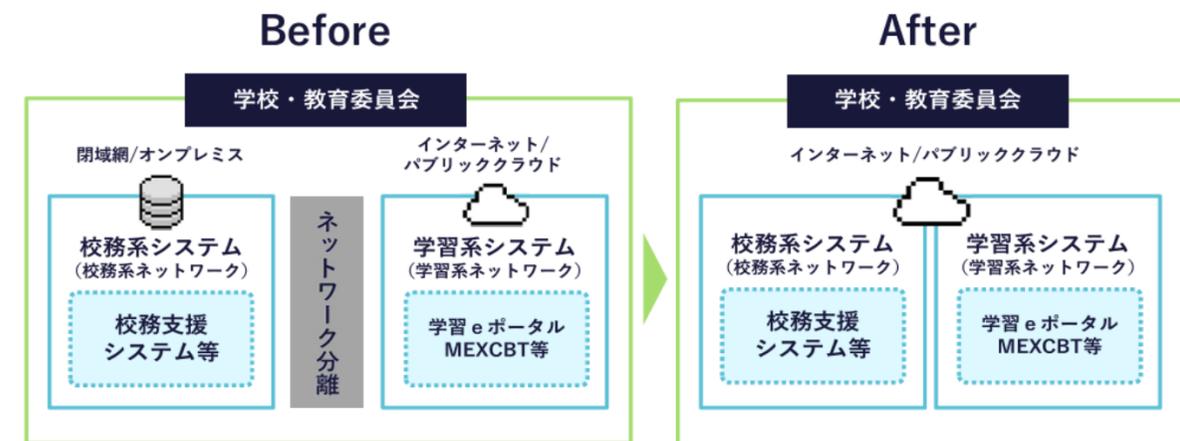
ICTを活用するための 環境の整備

課題

- ・校務系データと学習系データの連携が不十分である。また、各学校のデータを教育行政向けに可視化できていない。
- ・クラウドツールと校務支援システムの使い分けなど、機能の整理ができていない。
- ・大規模災害時などの際に、業務の継続性や安全性が損なわれる危険性が高い。
- ・デジタル情報の管理の徹底が必要である。
- ・大型提示装置等のさらなる配置が必要である。

解決策

- ・ゼロトラストの考え方に基づき、アクセス制御によるセキュリティ対策を十分講じた上で、校務系・学習系ネットワークを統合する。



文部科学省「GIGAスクール構想の下での校務DXについて～教員の働きやすさと教育活動の一層の高度化を目指して～(詳細版)」(令和5.3.8)より引用

- ・クラウド上やサーバ上に存在する様々なデータを自動的に収集、分析、加工して簡潔にまとめ、集計値や表、グラフなどで視覚的に分かりやすく一覧化した「ダッシュボード」を構築する。
- ・大型提示装置の特別教室への配置をすすめる。

4-4 課題と解決策



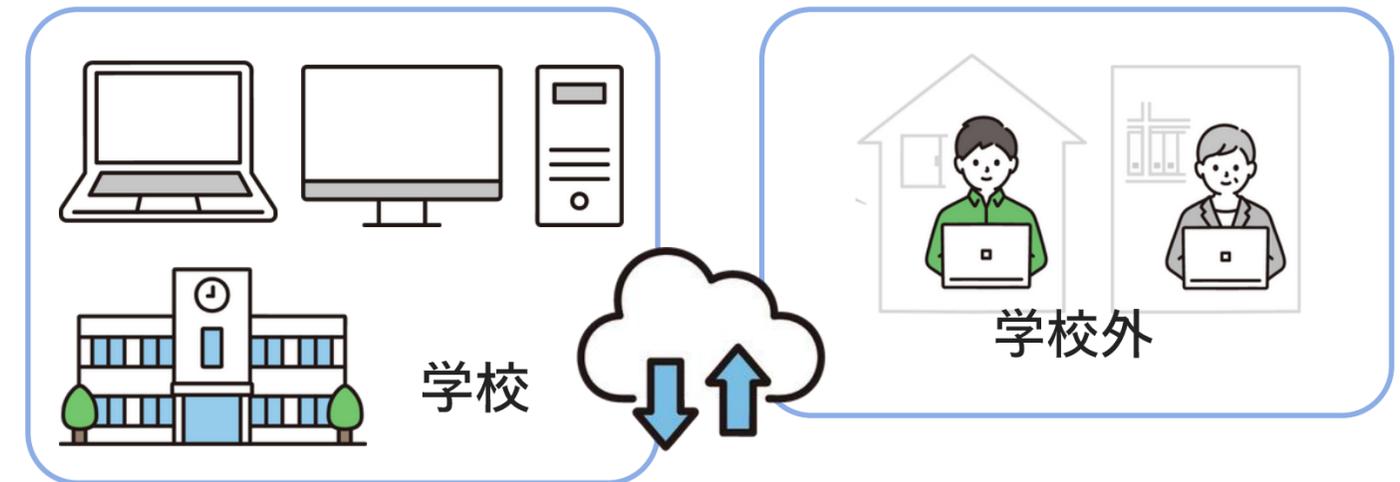
校務の改善と ICT推進体制の整備

課題

- ・校務支援システムを自前サーバに構築し、閉域網で稼働させている。
- ・校務処理の多くを職員室で行っている。
- ・クラウドサービス利活用を前提としたネットワークの整備が進んでいない。
- ・学校現場においては、紙ベースの業務が主流となっている。
- ・WEB調査システムやCBTシステムから生成されるデジタル情報と校務支援システムが連携していない。

解決策

- ・校務支援システムのクラウド化と教職員用端末の一台化を組み合わせることで、ロケーションフリーで校務系・学習系システムへ接続可能な環境を整備する。また、共同編集などによる効率化を図る。



- ・デジタル採点システムを採用し、採点作業の効率化と正確性の向上を図るとともに、データ分析を活用し、個別指導にいかす。
- ・教育委員会内のデジタル部門を統合する。

5-1 「4か年計画」の概要

これまでの教育にデジタル機器を取り入れるだけでなく、学校の環境そのもののデジタル化をさらに進めていきます。そして、デジタル技術を最大限に活用した新しい教育の形をつくり出します。つまり、リアルとデジタルを融合し、教育をまるごとバージョンアップさせるイメージです。

第1段階：デジタイゼーション（電子化：ICTの導入）

第2段階：デジタルイゼーション（最適化：再構築を含む）

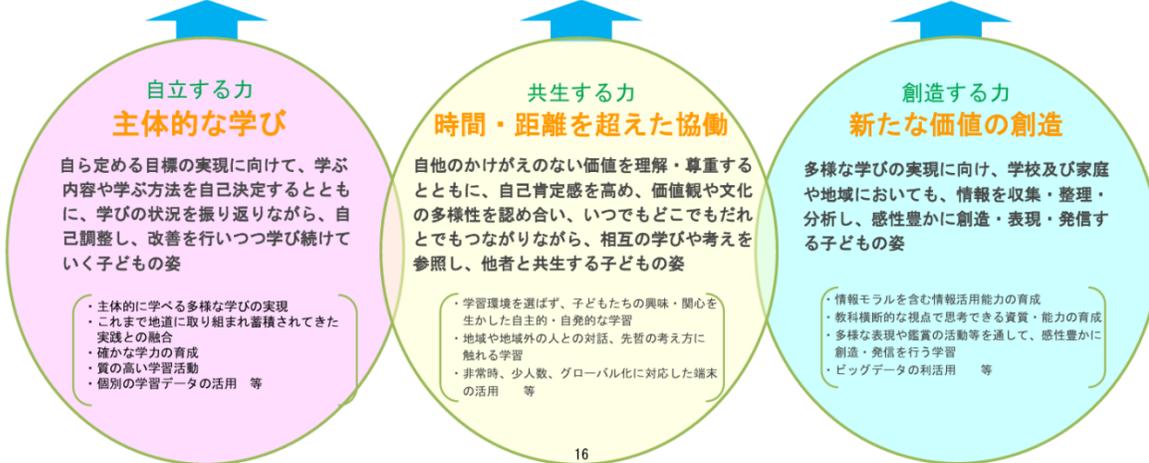
第3段階：デジタルトランスフォーメーション（新たな価値の創造）

5-2 「4か年計画」の概要

【参考資料】第4回 三重県GIGAスクール構想推進協議会（令和7.2.14）より

GIGAスクール構想 第2期三重県共同調達会議におけるめざす子どもの学びの姿

多様な環境や特性に応じた学びを通して、
これからの時代を生きていくための基礎となる力を身につけた子ども
～誰一人取り残すことのない、学びの実現～



GIGAスクール構想 第2期 三重県共同調達会議におけるICT環境の基本コンセプト



5-3 「4か年計画」の概要

	令和7年度 (2025)	令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)	令和10年度 (2028)
 <p>ICTを活用した 児童生徒の 資質・能力の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 1人1台端末の完全整備(iPad×LTE) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 情報活用能力段階表の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ● 授業等における生成AIの有効活用(児童生徒・教職員) 	<ul style="list-style-type: none"> ● メタバースによる学びの場の提供
 <p>教職員のICT活用 指導力の向上と 人材の確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● iPad×ロイロノートの活用研修(スキルアップ) 	<ul style="list-style-type: none"> ● プログラミング教育の定着(中学校技術含) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 非常時を想定したオンライン学習デーの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会科副読本のデジタルブック化
 <p>ICTを活用するための 環境の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● デジタル採点システムプレ導入 	<ul style="list-style-type: none"> ● オンライン学習・研修環境の整備 ● 大型提示装置等の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教育データの可視化 	
 <p>校務の改善と ICT推進体制の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● デジタル関係の情報一元化開始 ● 志摩市総合教育センターWEBサイトの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ● 校務系・学習系ネットワークの整備事業 ● 校務支援システムの見直し・全校整備 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習データの有効活用 ● 校務系PCの整備・再配置 	
	<p>デジタイゼーション (電子化)</p>	<p>デジタライゼーション (最適化)</p>	<p>デジタルトランスフォーメーション (新たな価値の創造)</p>	

6-1 各年度の具体的な施策

令和7(2025)年度

施策名	担当部署	具体的な内容	目標値	予算
1人1台端末の完全整備 (iPad×LTE)	・学校教育課 ・総合教育センター	令和7年9月を目途に、Windows端末からiPadへの切替を行う。教職員には夏季休業期間中にiPadを配付し、導入研修を行う。	児童生徒への配付率 100% 教職員 75%	端末調達含め 2億円規模
iPad×ロイロノート の活用研修 (スキルアップ)	・総合教育センター ・研修担当者	令和7年度夏季休業期間中から教職員への活用研修を行う。また、活用場面でのフォローができるようICT支援員との連携を密にしていく。	教職員の研修における内容理解度 90%	株式会社LoiLoによる研修活用のため無料
デジタル関係の情報の一元化開始	・学校教育課 ・総合教育センター	学校教育情報化の進展を図るため、学校教育課と総合教育センターのデジタル部門の統合に向け、デジタル関連業務の調整を行う。	なし	なし
デジタル採点システム プレ導入 (市内中学校)	・学校教育課 ・総合教育センター	教職員の業務負担軽減およびペーパーレス化を図るため、市内中学校においてデジタル採点システムの試用を行い、次年度以降の本格導入をすすめる。	なし	※導入すると… 1校10万円程度
志摩市総合教育センターWEBサイトの充実	・総合教育センター	MEXCBT等のサイトやデジタル教材の活用動画などの情報について、一元化されたWEBサイトを作成し、児童生徒・教職員が利活用できる環境を整える。	なし	なし

6-2 各年度の具体的な施策

令和8(2026)年度

施策名	担当部署	具体的な内容	目標値	予算
情報活用能力 段階表の見直し	・総合教育 センター ・情報教育担当者	端末更新に係る活用ソフトの変更などを加味し、情報活用能力予定表の見直しを図る。教育委員会で素案を作成の上、情報教育担当者会議で策定を行う。	なし	なし
プログラミング 教育の定着 (中学校技術含)	・センター 研修員	センター研修員による出前授業やデジタル教材の活用方法の資料・動画などの提供を通じて、プログラミング教育の指導力向上を図る。	なし	未定
オンライン学習・ 研修環境の整備	・総合教育 センター	授業などにおけるICT活用について、実践事例や指導案などを整理し、志摩市総合教育センターWEBサイトなどを活用して発信する。	ICT研修の単年度 活用率 100%	なし
大型提示装置等の 整備	・総合教育 センター	特別教室での視覚支援が進むよう、必要教室分の大型提示装置およびAppleTVの整備を行う。	特別教室必要数 分の追加	15万×追加30台 =450万円
校務系・学習系 ネットワークの 整備事業	・総合教育 センター	全国学調の完全CBT化および校務用端末の更新時期に合わせて、ネットワークの調査・見直しを行い、十分な速度の確保とネットワークの統合を図る。	市内全校での 実施	調査中
校務支援システムの 見直し・全校整備	・県教委連携 ・他市町連携 ・総合教育 センター	次世代校務DX環境の全国的な整備の動向を注視し、近隣市町との情報共有を密にしながら、共同調達などの県事業の準備を進める。	市内全校に整備 (令和8～令和9年度)	調査中 既存のシステムの 場合3,580万円程度

6-3 各年度の具体的な施策

令和9(2027)年度

施策名	担当部署	具体的な内容	目標値	予算
授業等における生成AI等の有効活用 (児童生徒・教職員)	・総合教育センター ▶研修担当者	生成AI等、新たな技術の活用における適切な情報の取扱い方や授業実践のあり方を検討し、研修を実施することで、有効的な活用の在り方を検討する。	生成AIに係る研修講座年1回	未定
非常時を想定したオンライン学習デーの実施	・総合教育センター ▶各小中学校 ▶防災担当	非常時においても学習支援クラウドサービスの機能などを活用して連絡や学習が行えるよう、各校と連携して準備を進め、実際に体験する日を設定する。	市内全校での実施	未定
教育データの可視化	・学校教育課 ・総合教育センター	教育データを可視化する「教育ダッシュボード」の運用を行い、教職員の知見との組み合わせによるエビデンスベースの指導を一層推進する。	市内小中学校の活用率 100%	調査中
学習データの有効活用	・学校教育課 ・総合教育センター	全国学調・みえスタや自動採点システムから生じる学習データをAI分析にかけて、個別最適な支援・指導が行えるような体制を構築していく。	市内小中学校の活用率 100%	未定
校務系PCの整備・再配置	・総合教育センター	次世代校務DX環境の全国的な整備の動向を注視し、近隣市町との情報共有を密にしながら、学習系と校務系PCの統合などの事業にいち早く対応する。	市内全校での実施	調査中

6-4 各年度の具体的な施策

令和10(2028)年度

施策名	担当部署	具体的な内容	目標値	予算
メタバースによる 学びの場の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育課 ・こども家庭課 ・総合教育センター 	仮想空間内での活動を通じて、リアルなコミュニケーション体験を提供し、児童生徒がよりアクティブに学びに向かう環境を創出する。	未定	未定
社会科副読本 デジタルブック化	<ul style="list-style-type: none"> ・総合教育センター 	動画や、360度VR映像による視覚的なコンテンツ、クイズや地図機能等、デジタル技術を活用し、児童の故郷への興味関心を高め、自発的な学習を促す。	市内小学校の 活用率 100%	総額100万円 (令和10年度まで の4年間)

7-1 評価指標



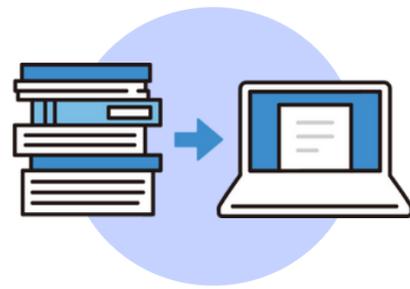
ICTを活用した 児童生徒の 資質・能力の育成



教職員のICT活用 指導力の向上と 人材の確保

取組の進捗状況を測る指標	令和6年度 現状値	令和8年度 目標値
① 授業における児童生徒のICT機器（PC・タブレットなど）の利用頻度 （全国学調：児童生徒質問調査において、週3回以上と回答した割合）	小学校 21.8% 中学校 64.9%	小学校 80.0% 中学校 80.0%
② 児童生徒がPC・タブレットなどのICT機器を活用して、自分の考えや意見を分かりやすく伝える能力 （全国学調：児童生徒質問調査）	小学校 65.4% 中学校 73.2%	小学校 80.0% 中学校 80.0%
③ 児童生徒が考えをまとめて発表・表現する場面における、1人1台端末などのICT機器の利用頻度 （全国学調：学校質問紙調査において、週3回以上と回答した割合）	小学校 28.6% 中学校 16.6%	小学校 80.0% 中学校 80.0%
④ 児童生徒が特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面における、1人1台端末などのICT機器の利用頻度 （全国学調：学校質問紙調査において、週3回以上と回答した割合）	小学校 42.9% 中学校 33.4%	小学校 80.0% 中学校 80.0%
⑤ キーボードによる日本語入力スキル（文字/分） （調査対象：小学5年生・中学2年生）	—	小学校 40字 中学校 60字
⑥ 授業にICTを活用して指導する能力 （学校における教育の情報化の実態等に関する調査）	88.3%	100%
⑦ 児童生徒のICT活用を指導する能力 （学校における教育の情報化の実態等に関する調査）	91.3%	100%

7-2 評価指標



ICTを活用する
ための環境の整備



校務の改善と
ICT推進体制の整備

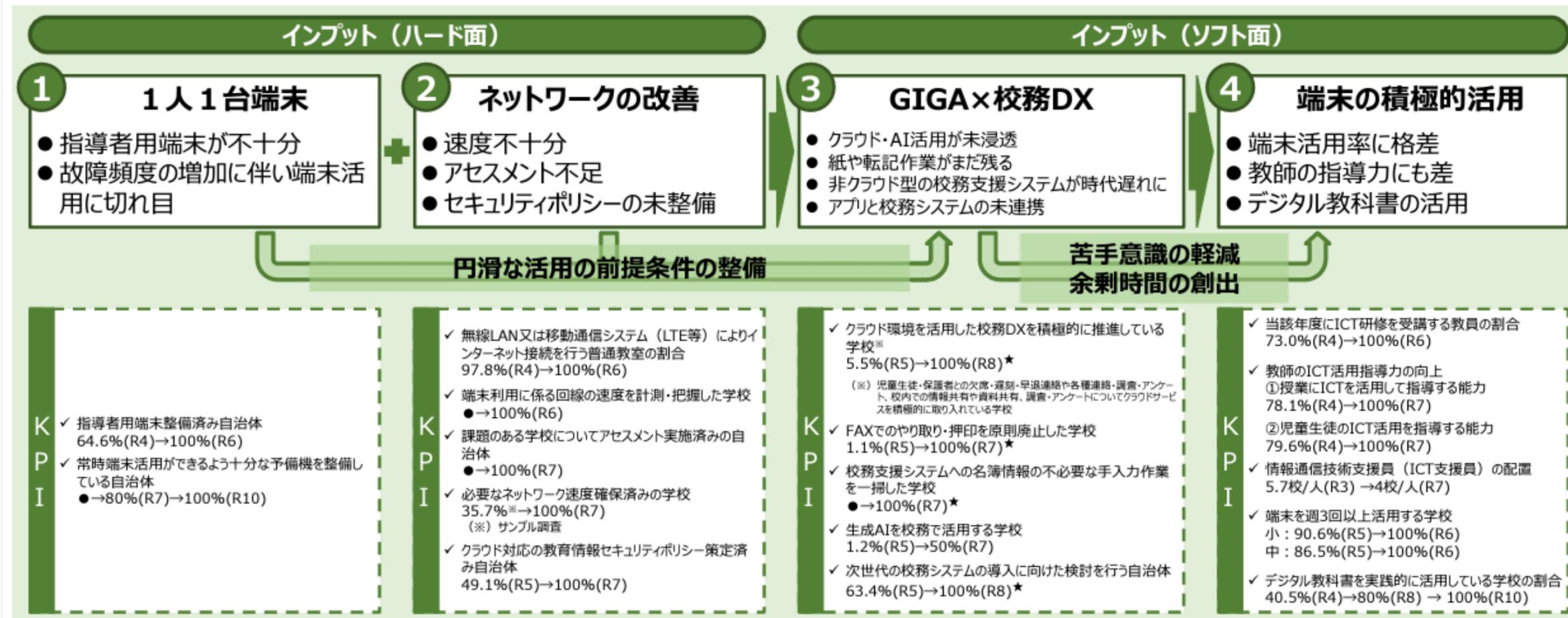
取組の進捗状況を測る指標	令和6年度 現状値	目標値
⑧ 十分なネットワーク速度確保済みの学校	5/13校 (38%)	令和8年度 100%
⑨ 指導者用タブレット端末の完全整備	56% ※学級数+αが配置	令和8年度 100%
⑩ ICT支援員の配置数（学校での直接支援および遠隔サポートの合計人数）	4.5人	令和8年度 5人
⑪ 当該年度にICT研修を受講する教職員の割合	—	令和8年度 100%
⑫ 希望する不登校児童生徒などへの授業配信を実施している学校の割合	12/13校 (92%)	令和8年度 100%
⑬ ロケーションフリーでの校務処理環境が整った学校（災害時などを含む）	0/13校 (0%)	令和10年度 100%
⑭ クラウド環境を活用した校務DXを徹底している学校	0/13校 (0%)	令和10年度 100%
⑮ 次世代の校務システムを導入済みの学校	0/13校 (0%)	令和10年度 100%

7-3 評価指標

【参考資料】

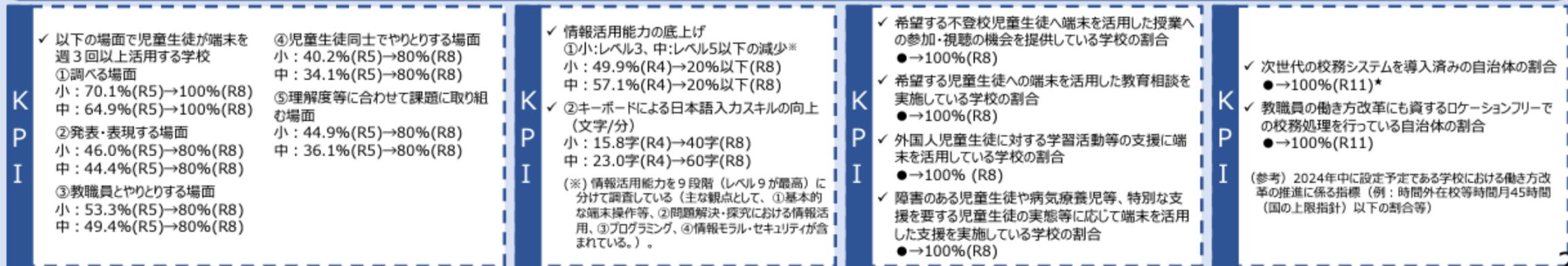
教育DXに係る当面のKPI

令和6年4月22日
デジタル行財政改革会議



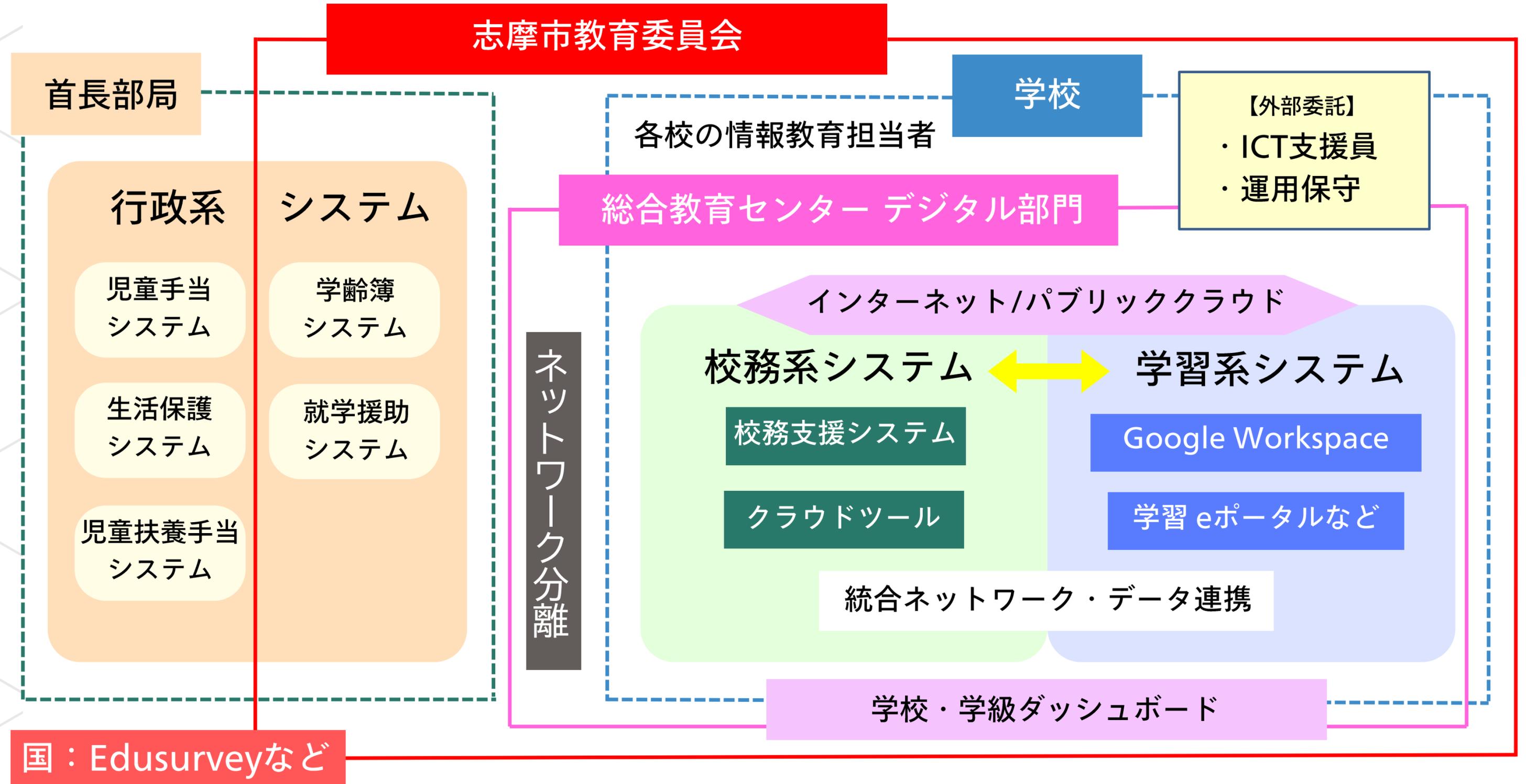
アウトカム

① 個別最適・協働的な学びの充実 ② 情報活用能力の向上 ③ 学びの保障 ④ 働き方改革への寄与



●：現時点において未調査の数値 ★：ダッシュボードにより進捗を管理するKPI ※本資料については、取組の進捗を踏まえて継続的に見直す。

8 組織体制



9-1 今後の展望

教育DXは、児童生徒の個人情報保護に配慮し、安全な学習環境を確保しながら、情報格差の解消や教職員のデジタルリテラシー向上の取組を加速させていくことで、教育の質の向上だけでなく、社会全体の活性化にもつながる可能性を秘めています。また、児童生徒の人材育成は、地域や社会の成長にも寄与していきます。

AIの活用によるパーソナライズ学習の普及

AIが生徒一人ひとりの学習データを分析し、最適な学習内容や学習ペースを提案する。苦手分野の克服や、得意分野の更なる深掘りを支援し、一人ひとりの能力を最大限に引き出す。

メタバースを活用した没入型学習環境の構築

VRやARなどの技術を活用し、歴史や科学の現場を疑似体験できるような没入型学習環境の構築を図る。従来の教科書だけでは得られない、立体的な理解や深い学びを実現する。

教育と社会の連携強化

オンライン授業などにより、学校教育と社会との連携を強化し、企業や地域社会が持つ資源や知見を教育に活かす。実践的な学びの機会を増やし、社会で求められる能力の育成につなげる。

9-2 今後の展望

教育データ利活用の目指すべき姿 (to be)



ICTを活用した 児童生徒の 資質・能力の育成

これまでも教職員の創意工夫で行われてきた「多様な子どもたちにとって包摂的で、主体的・対話的で深い学びの一層の充実に資する学習環境」の構築をデジタルの力でさらに加速させ、情報技術の特性・強みをもって、学習活動における児童生徒の環境をより豊かにします。

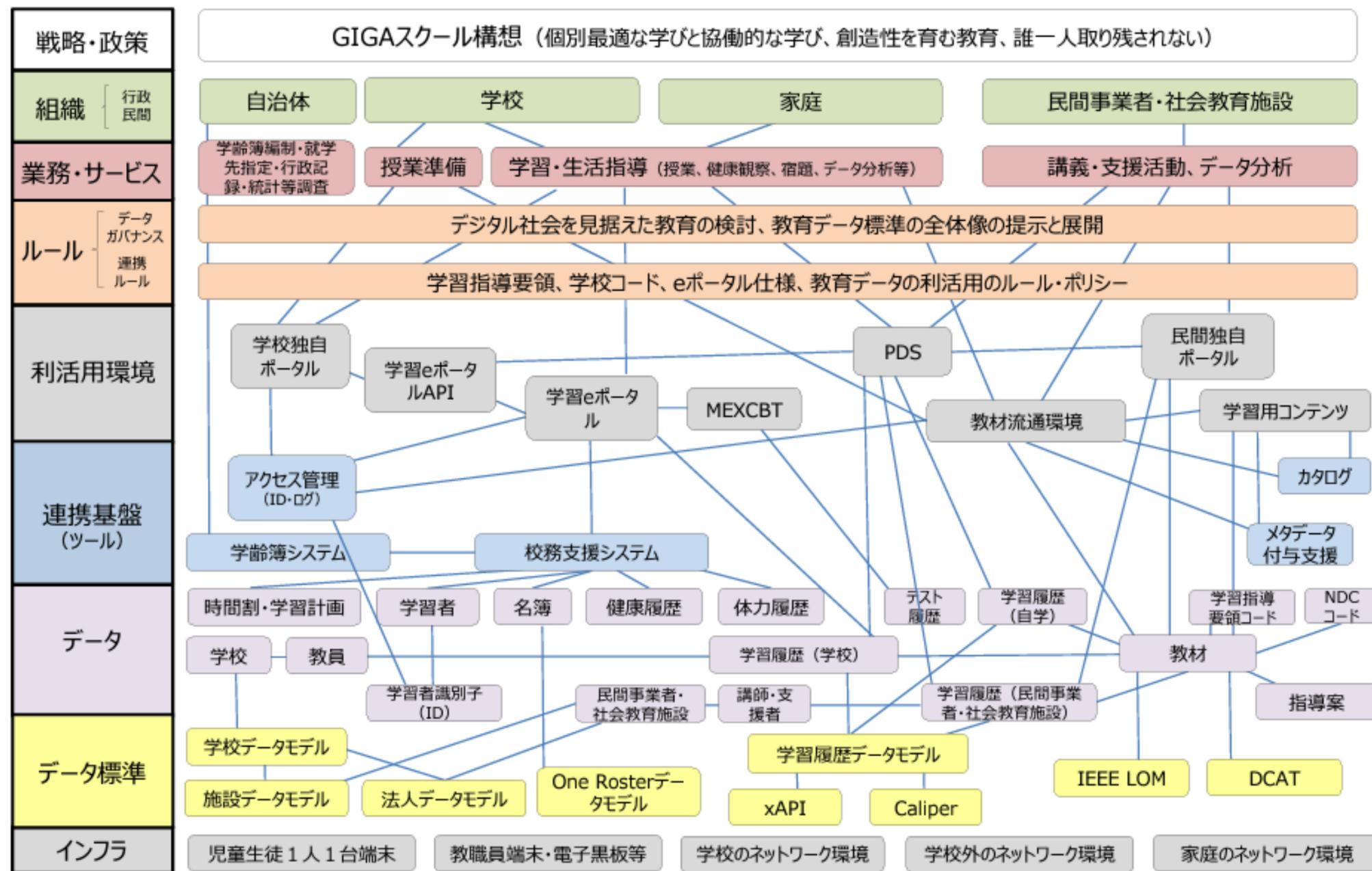
また、デジタルの利活用で、すべての児童生徒にその環境をより容易に提供していくことができます。その際には、児童生徒の健康面への対応・配慮や情報リテラシー・情報モラルの指導も欠かせません。

9-3 今後の展望



教職員のICT活用 指導力の向上と 人材の確保

教育データの蓄積と流通の将来イメージ (アーキテクチャ：初中教育)



学校・自治体ごとにバラバラに定義されたり、バラバラに活用されている教育データ・ノウハウ・知見や教育実践を近隣市町・県・全国レベルで共有し、それらを用いて新たな価値を創り出すことで学びの在り方を変革し、教育水準の向上を目指します。

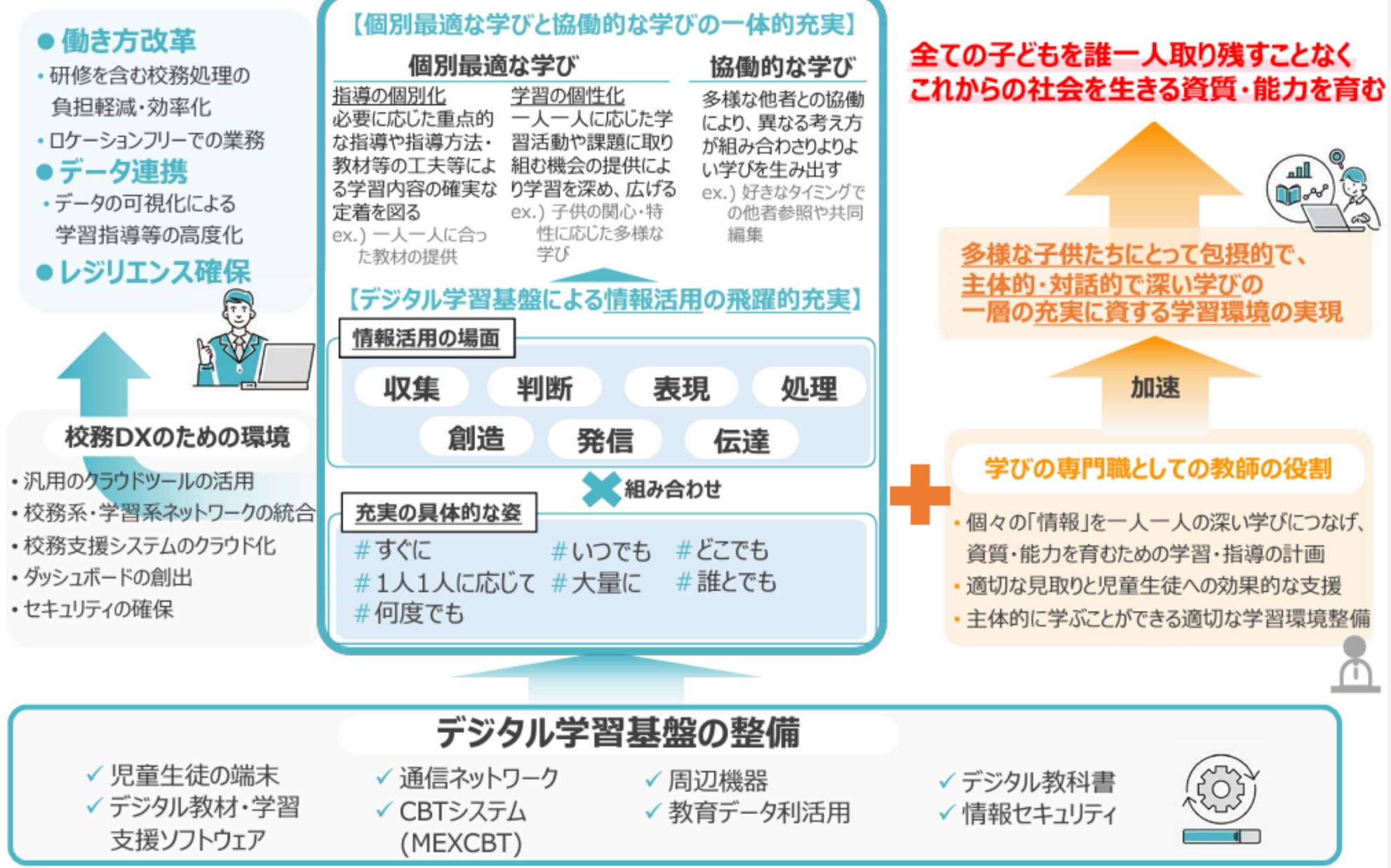
また、ICTを活用し、距離や空間を超えた学びの機会が提供されることで、従来の教科書だけでは得られない企業や地域社会が持つ資源や知見を教育に活かす機会を増やすことができます。

「教育データ利活用ロードマップ」(令和4年1月7日デジタル庁、総務省、文部科学省、経済産業省)より引用

9-4 今後の展望

デジタル学習基盤が可能とする学びの姿（イメージ）

103



GIGAスクール構想の下で、学校におけるデジタル教科書やデジタル教材・学習支援ソフトウェア等の導入が加速しており、また、それらの接続や連携強化による学びの充実が期待されています。

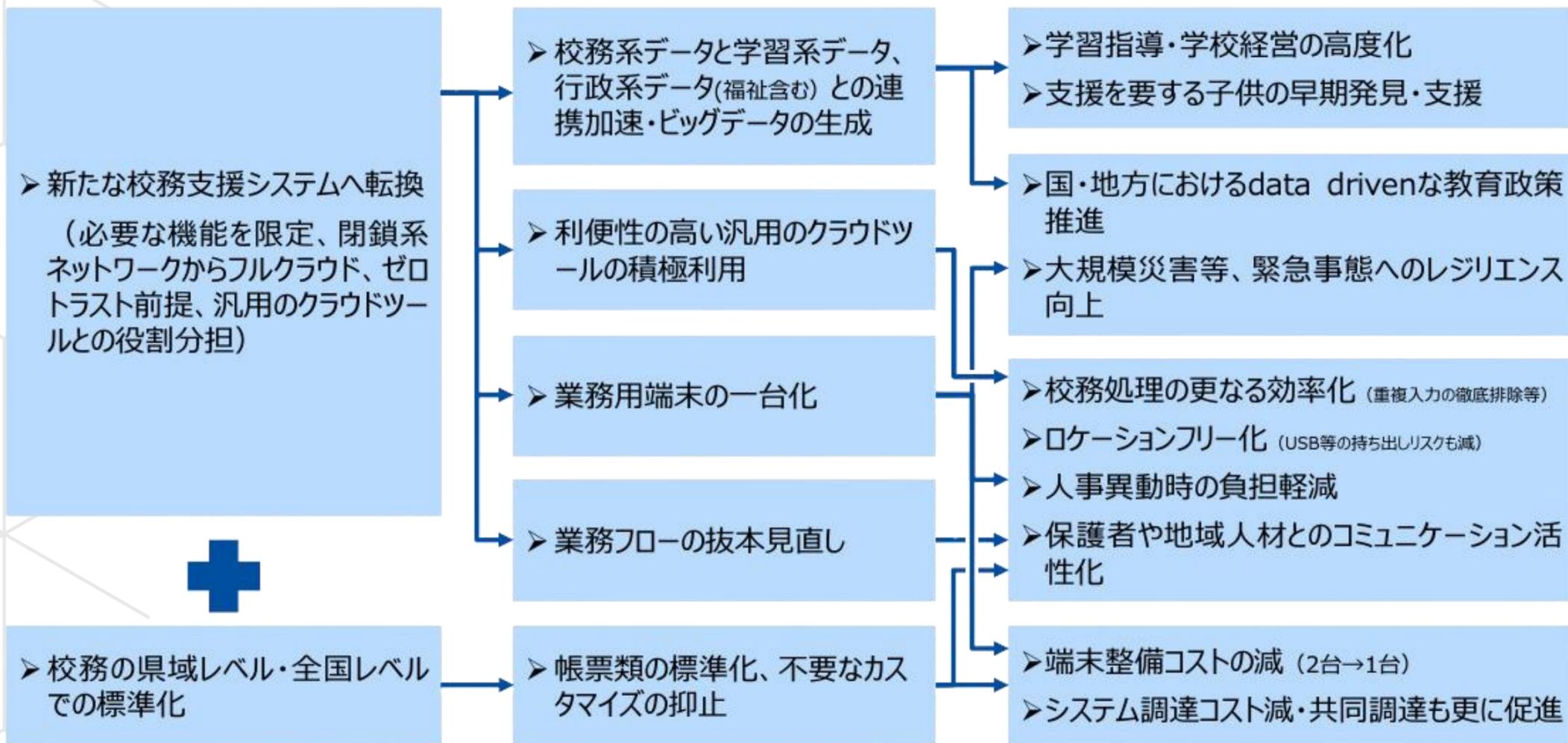
児童生徒の端末・通信ネットワーク等の整備をはじめとするデジタル学習基盤の整備を着実に進めていくとともに、今後の教育課程や学習指導の在り方・文部科学省が作成している教材整備指針との関係等に留意しつつ、今後も検討や更新を継続していきます。

「デジタル学習基盤に係る現状と課題の整理（案）」（令和6年9月30日第5回デジタル学習基盤特別委員会資料）より引用

9-5 今後の展望

参考 1

次世代の校務DXが目指すアウトプット・アウトカムイメージ



校務の改善とICT推進体制の整備

次世代の校務DXは、単に事務作業を効率化するだけでなく、教育の質の向上や学校経営の改革、そして教職員の働き方改革を総合的に実現することを目指していきます。これにより、児童生徒一人ひとりが最大限に能力を発揮できるような教育環境を創出することを可能にします。

また、単に端末を提供するだけでなく、児童生徒や教職員に対して、ソフトウェアやコンテンツ、サポート体制の充実など、さまざまな側面からの支援を行います。

「GIGAスクール構想の下での校務DXについて～教職員の働きやすさと教育活動の一層の高度化を目指して～」
(令和5年3月8日 GIGAスクール構想の下での校務の情報化の在り方に関する専門家会議) より引用

10-1 まとめ

教育のデジタル化は、未来を担う子どもたちへの投資です。デジタル化によって、子どもたちが「自ら学び、考え、行動する力」をさらに伸ばし、地域や社会に貢献できる人材へと成長するため、デジタルの利活用ができる環境を整備していきます。

また、「ICTで広がる学びのHorizons」つまり「ICTで、学びの可能性を広げ、未来を切り拓く力を身につける」教育を進めていきます。

| 10-2 まとめ

1 「リアル」 × 「デジタル」 の最適な組合せによる創造的な学びの推進

教職員の知見や専門性とデジタルの力を最適に組み合わせた授業を展開し、新たな価値の創造に挑み続け、地域や社会に貢献していくような児童生徒の育成を目指します。

2 すべての児童生徒に対する「個別最適な」「協働的な」学びの提供

デジタルの力を有効活用しながら、誰一人取り残すことのない教育の実現を図り、主体的に課題と向き合い、他者ととともに学びを深めていくことが当たり前の学習環境を提供します。

また、持ち帰ったタブレットによる家庭学習や自主学習活動を推進し、学習習慣の定着につながるICT機器の利活用について、実践・検証を進めていきます。

3 学校・家庭が連携した「効果的」「効率的」なデジタル環境の構築

個人情報保護やセキュリティ等について配慮しながら、保護者との教育データの共有や効果的な利活用を促進します。

また、デジタル技術によって教職員の事務作業の効率化やワークライフバランスの改善を進めることで、教職員の専門性の向上を図り、一人ひとりの児童生徒を支援する仕組みをこれまで以上に強化していきます。